

# 2009年3月期 第3四半期 業績の概況

- 連結業績の状況について
- 主要製品の売上高について
- 開発品の状況について
- 主な子会社の業績と予想について

2009年2月5日

株式会社キョーリン



# 2009年3月期第3四半期 決算概観(連結)

## 09年3月期第3四半期(連結)業績

- 【売上】 一時金収入が大幅に減少したものの、主要製品の好調な推移、日清キョーリン製薬(株)の吸収合併により国内新医薬品等の売上が増加し、売上高は664億円(前年比6.5%増)となりました。
- 【利益】 売上総利益は、一時金収入の減少を国内新医薬品の伸長で吸収し、約1億円の増加となりました。一方、販売費および一般管理費は日清キョーリン製薬(株)の吸収合併等により約6億円増加した結果、営業利益は53億円(前年比7.8%減)となりました。四半期純利益は、特別損失として約32億円を計上した結果、8億円(前年比68.6%減)となりました。

※08年10月29日に公表した連結業績予想につきましては、現時点での変更はございません。

単位: (百万円)	06年3月期 第3四半期	07年3月期 第3四半期	08年3月期 第3四半期	09年3月期 第3四半期	前年比
売上高	55,836	56,961	62,325	66,361	6.5%
営業利益	7,129	5,814	5,788	5,339	▲7.8%
経常利益	7,689	6,101	6,278	5,451	▲13.2%
当期純利益	4,670	3,483	2,687	842	▲68.6%

09年3月期 (予想)	前年比
88,600	9.3%
6,700	7.2%
7,000	5.4%
1,600	▲26.9%

- \* 06年3月期第3四半期業績までは杏林製薬(株)連結の数値、  
07年3月期第3四半期以降の業績及び09年3月期予想は(株)キョーリン連結の数値を示しています。
- \* 当年度は四半期報告制度の導入初年度であるため、業績の状況において比較、分析に用いた前年同期数値は独立監査人による四半期レビューを受けていません。

# 2009年3月期第3四半期 業績の状況(連結)

単位:億円

	08年3月期 第3四半期 (実績)	09年3月期 第3四半期 (実績)	対前年 増減
売上高 合計	623	664	+41
◆新医薬品	524	555	+31
国内	491	530	+39
海外	33	25	▲8
◆後発医薬品	38	46	+8
◆ヘルスケア	54	54	±0
◆その他	8	9	+1
営業利益	58	53	▲5
経常利益	63	55	▲8
四半期 純利益	27	8	▲19

## ■ 売上高

664億円

対前年比  
(+41)

### ●国内新医薬品

530億円

(+39)

08.3(3Q)実績 09.3(3Q)実績

・キプレス	140	→	181	(+41)
・ペンタサ	68	→	117	(+49)
・ウリス	6	→	13	(+7)
・ムコダイン	159	→	153	(▲6)

\* その他マイナス要因: バイナス、ヘスパンダーの自社販売終了、ガチフロ販売中止、一時金収入の減少等

### ●海外新医薬品

25億円

(▲8)

・ガチフロキサシ	21	→	19	(▲2)
・一時金収入の減少				

### ●後発医薬品

46億円

(+8)

・重点商品の伸長、追補品・承継品による売上増加

### ●ヘルスケア

54億円

(±0)

・ミルトン	15	→	14	(▲1)
・ドクタープログラム社	24	→	26	(+2)

### ●その他

9億円

(+1)

### ◆原価率: 前年比 3.6ポイント上昇 (38.2%→41.8%)

上昇要因: 薬価改定(杏林製薬約4%)の影響、一時金収入の減少、製品販売構成の変化

### ◆研究開発費率: 前年比 1.8ポイント低下(13.2%→11.4%)

研究開発費: 83億円→76億円(約7億円減少)

増加要因: 導入品フルチフォームの契約一時金を計上、日清キョーリン製薬の吸収合併による増加

減少要因: 前年は共同開発費用の期ずれによる計上

### ◆販管費率(除R&D費): 前年比 0.4ポイント低下(39.2%→38.8%)

販管費(除R&D費): 244億円→257億円(約13億円増加)

増加要因: 日清キョーリン製薬の吸収合併による増加

## ■ 営業利益

53億円

(▲5)

\* 営業利益率は8.0%と1.3ポイント低下

## ■ 四半期純利益

8億円

(▲19)

\* 特別損失32億円(ガチフロ約26億円、投資有価証券評価損約4億円等)

# 第2四半期連結累計期間と第3四半期連結会計期間の業績

(08年4~9月) (08年10~12月)

単位: 億円

	09年3月期 第2四半期 累計期間	対前年 増減
売上高	403	+9
売上原価	177	+30
売上比率	44.0%	
売上総利益	225	▲22
販売費及び 一般管理費	213	▲6
研究開発費	50	▲7
研究開発費を 除く販管費	163	+1
営業利益	12	▲16
経常利益	12	▲19
四半期純利益	▲16	▲26

	09年3月期 第3四半期 会計期間	対前年 増減
売上高	261	+31
売上原価	100	+9
売上比率	38.4%	
売上総利益	161	+23
販売費及び 一般管理費	120	+12
研究開発費	26	±0
研究開発費を 除く販管費	94	+12
営業利益	41	+11
経常利益	43	+11
四半期純利益	24	+7

## ポイント

※ペンタサ+22億円、キプレス+16億円等  
好調に推移

※原価率はペンタサ自社製造等に伴い低下

※研究開発費を除く販管費は  
日清キョーリン製薬(株)の吸収合併  
により増加

※営業利益は増収により販管費増を  
吸収して大幅増益

第2四半期連結累計期間は、売上高が増加したものの一時金収入の減少等により増収減益となりました。  
一方、第3四半期連結会計期間は、日清キョーリン製薬(株)の吸収合併、国内新医薬品の続伸等により増収増益となりました。

# 2009年3月期第3四半期 業績の状況(連結)

(単位:百万円)

	第2四半期		通期		第3四半期(4月～12月)				
	07年度 実績	08年度 実績	07年度 実績	08年度 予想	07年度 実績	08年度 実績	前年差額	前年比	通期 進捗率
<b>売上高</b>	39,363	40,261	81,070	88,600	62,325	66,361	+4,036	6.5%	74.9%
<b>新医薬品</b>	32,801	33,046	67,631	73,100	52,397	55,529	+3,132	6.0%	76.0%
国内新医薬品	30,289	31,239	63,296	69,900	49,117	53,001	+3,884	7.9%	75.8%
海外新医薬品	2,512	1,806	4,334	3,200	3,279	2,527	▲752	▲22.9%	79.0%
後発医薬品	2,539	2,929	5,088	6,300	3,786	4,583	+797	21.1%	72.7%
ヘルスケア	3,545	3,684	7,296	8,000	5,372	5,392	+20	0.4%	67.4%
その他	477	600	1,054	1,200	769	855	+86	11.2%	71.3%
<b>営業利益</b>	2,788	1,243	6,251	6,700	5,788	5,339	▲449	▲7.8%	79.7%
<b>経常利益</b>	3,118	1,175	6,643	7,000	6,278	5,451	▲827	▲13.2%	77.9%
<b>当期純利益</b>	953	▲1,606	2,189	1,600	2,687	842	▲1,845	▲68.6%	52.6%

# 主要製品の売上高について

(単位: 億円)

製品名		第2四半期		通期		第3四半期(4月～12月)			
		07年度実績	08年度実績	07年度実績	08年度予想	07年度実績	08年度実績	前年比	通期進捗率
国内 新医薬品	キプレス (LT受容体拮抗剤・ 気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	79	104	191	234	140	181	29.3%	77.3%
	ガチフロ(自社販売) (広範囲経口抗菌薬)	11	9	23	6	18	7	▲60.0%	—
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	90	87	212	207	159	153	▲3.7%	73.9%
	バクシダール (広範囲経口抗菌剤)	2	2	5	4	4	3	▲22.0%	75.9%
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害改善剤)	28	26	54	52	43	39	▲9.6%	75.2%
	アプレース (胃炎・胃潰瘍治療剤)	9	8	18	15	14	12	▲16.6%	79.9%
	ロカルトロール (活性型ビタミンD3製剤)	9	8	18	16	14	12	▲13.9%	76.2%
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	44	71	88	155	68	117	71.1%	75.3%
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	5	6	7	19	6	13	130.5%	69.1%
海外 新医薬品	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	16	14	30	26	21	19	▲10.5%	74.6%
	ノルフロキサシン (バルク)	1	1	3	1	2	2	▲4.0%	151.8%
ヘルスケア	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	10	9	19	20	15	14	▲7.0%	71.5%

# 開発品一覧①(09年2月5日現在)

Ph II ~ 申請中

※: 前回(09年3月期第2四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
※承認 (08年12月)		ペンタサ錠250 錠500	潰瘍性大腸炎・ クローン病 治療剤	フェリング 社	潰瘍性大腸炎活動期に対する新たな緩解導入療法 (1日4,000mgを2回に分けて投与)	用法・用量の追加
	(ガルドマ社 発売中)	塩酸アモロフィン ネイルラッカー	爪白癬治療剤	自社	日本初のネイルラッカー製剤	
	Ph II (04年10月)	KRP-204 (錠)	抗肥満剤	日清製粉	選択性の高いβ3受容体作動薬 従来のβ3作動薬に比べて心への影響が少なく、 肥満を改善することが期待される	日清製粉グループ本社 日清ファルマと共同開発 ・Ph II a終了
Ph II (07年3月)		KRP-204 (錠)	過活動膀胱 治療剤	日清製粉	β3受容体作動薬 膀胱におけるβ3受容体の活性化により膀胱を弛緩 させ蓄尿機能を高めることが期待される	日清製粉グループ本社 日清ファルマと共同開発 ・Ph II a終了
Ph II (05年3月)	(エーザイ Ph III)	AS-3201 (錠)	糖尿病合併症 治療剤	大日本 住友製薬	アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞 内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病性神経障害を 改善する	・大日本住友製薬と 共同開発(国内のみ) ・Ph II b(07年9月)開始
	Ph II (04年6月)	KRP-101 (錠)	脂質代謝改善/ 糖尿病治療剤	自社	PPARαアゴニスト。中性脂肪等脂質代謝改善作用に 加えて、糖尿病に対する有効性が期待される	Ph II a終了
Ph II (08年2月)	Ph II (07年9月)	KRP-104	糖尿病治療剤	自社	DPPIV阻害剤。インスリン分泌ホルモンの分解を抑え ることにより血糖低下作用を示す。副作用の発現が 少ない糖尿病治療が期待される	・海外Ph II a終了 (08年8月)
Ph II (08年8月)	(米国:アボット 欧州他: ムンディファーマ Ph III)	KRP-108	気管支喘息治 療剤	スカイ ファーマ社	ステロイド及び長時間作動型β作動薬の配合剤で利便 性やコンプライアンスに優れる	スカイファーマ社と ライセンス契約(08年4月)

# 開発品一覧②(09年2月5日現在)

POCプロジェクト(前臨床～Ph I)						
開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
	Ph I (07年7月)	KRP-203	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調整剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ノバルティス社と ライセンス契約(06年2月)
	Ph I (07年10月)	KRP-105	脂質代謝改善	自社	選択性の高いPPAR $\alpha$ アゴニスト。KRP-101よりもさらにPPAR $\alpha$ 受容体に対して選択性が高い。脂質改善作用に加え、アディポネクチンの増加、レプチンの減少、体重増加抑制作用などが動物実験で確認されており、新たな脂質改善剤として期待される	
前臨床		KRP-107	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P1受容体選択的アゴニスト。	

# 開発品一覧③(09年2月5日現在)

## 導出品の状況

製品名・ 開発コード	導出先・ 共同研究先	開発段階	薬効	起源	備考
アルファガン/ アルファガンP	千寿製薬	国内PhⅢ (07年7月)	緑内障治療薬	米国 アラガン社	・アラガン社より導入 (ガチフロキサシン点眼液のクロスライセンス) ・千寿製薬に導出(04年5月)
ケタス	米国 メディシノバ社	海外PhⅡ (05年8月)	脳血管障害治療薬	自社	・多発性硬化症の適応での日本、中国、 韓国、台湾を除く全世界における独占的 な開発、製造販売権を供与(04年10月) 08年4月 PhⅡの結果を公表
KCA-757	米国 メディシノバ社	海外PhⅢ (気管支喘息: 06年11月) 海外PhⅡ/Ⅲ (間質性膀胱炎: 05年5月)	気管支喘息治療薬 間質性膀胱炎治療薬	自社	・日本、中国、韓国、台湾を除く全世界に おける独占的な開発、販売権を供与 ・間質性膀胱炎:07年1月に結果を公表、 開発を中断 ・気管支喘息:海外PhⅢ一旦停止
KRP-203	スイス ノバルティス社	海外PhⅠ (07年7月)	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	・移植用の免疫調整剤として、全世界の開発及び 販売権、自己免疫疾患及びその他の疾患用剤と して、日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の 開発及び販売権(なお、炎症性腸疾患用剤と しては、全世界の権利を留保している)を供与 (06年2月)

# 主な子会社の業績と予想について

(単位：億円)

杏林製薬	08年3月期 実績	09年3月期 予想	08年3月期 第3四半期実績	09年3月期 第3四半期実績
売上高	705	759	546	577
営業利益	69	64	66	55
当期純利益	38	27	39	22

キョーリン リメディオ	08年1月期 実績	09年1月期 予想	08年1月期 第3四半期実績	09年1月期 第3四半期実績
売上高	60	77	45	53
営業利益	▲7	▲3	▲6	▲4
当期純利益	▲14	▲5	▲11	▲5

※キョーリン リメディオは第3四半期会計期間  
(08年8～10月)で黒字化を達成

ドクタープログラム	08年1月期 実績	09年1月期 予想	08年1月期 第3四半期実績	09年1月期 第3四半期実績
売上高	34	40	24	26
営業利益	▲3	1	▲4	▲1
当期純利益	▲4	0	▲3	▲1

※キョーリン リメディオ、ドクタープログラムは1月決算、杏林製薬は3月決算です。